

＜障害があっても安心して生活できる地域社会の実現＞
医療的ケア児向けの支援施策について

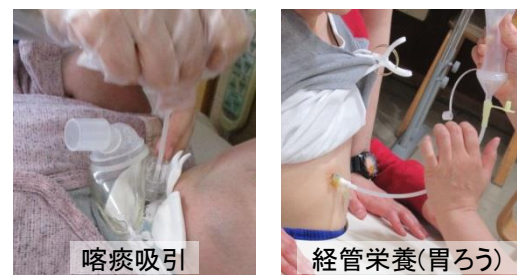
1 現状・課題

(1) 医療的ケアとは…

医師の指示、医師や看護師の指導支援体制のもと、本人や家族などが、治療目的ではなく、生活援助を目的として日常的に行う医療行為。

【医療的ケアの例】

喀痰吸引：口腔・鼻腔内、気管支などに溜まった痰などを直接吸引
経管栄養：鼻や腹部の皮膚から直接、胃にチューブを入れ栄養補給
排便：自然排便ができない場合、肛門から指を入れ便を摘出



喀痰吸引

経管栄養(胃ろう)

(2) 支援の充実を求める声

当事者・家族

日中活動サービスや短期入所事業所を利用したい！

ミスマッチ

事業所

看護師等が配置できないので、受入不可…

在宅で主に支援に当たる親等は、思うような休息もできず、過剰な負担

2 施策展開

(1) 医療型短期入所モデル事業(H28～) [H31当初予算額:12,489千円]

課題 医療的ケア児等を一時預かる医療型短期入所事業所は、仙台圏域に偏在している上に、病床数も不足し、予約が取りにくい。

○県内各地の医療機関等で、短期入所用の病床を確保

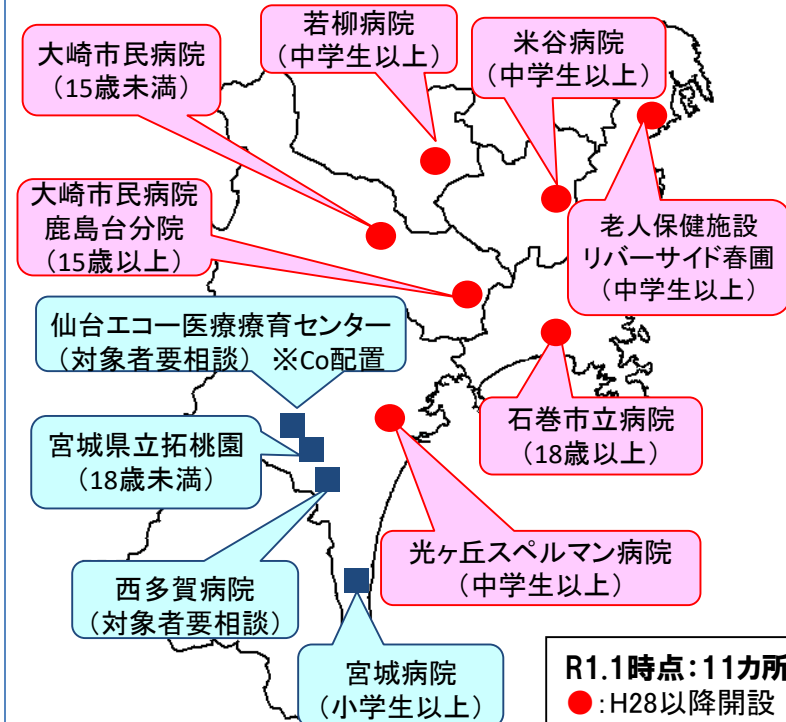
○空白圏域の解消を図り、利便性の向上を図る

対象	登米市立米谷病院(H28.10～)、栗原市立若柳病院(H29.10～)、大崎市民病院(R1.10～)、大崎市民病院鹿島台分院(R1.10～)
事業内容	・医療機関で、短期入所事業所の指定を新たに取得 ・県では、サービス利用時の診療報酬と介護給付費の差額、空床時の必要経費を補償

医療型短期入所事業所開設状況(R2.1.1時点)

医療型短期入所モデル事業利用実績(R2.1.1時点)

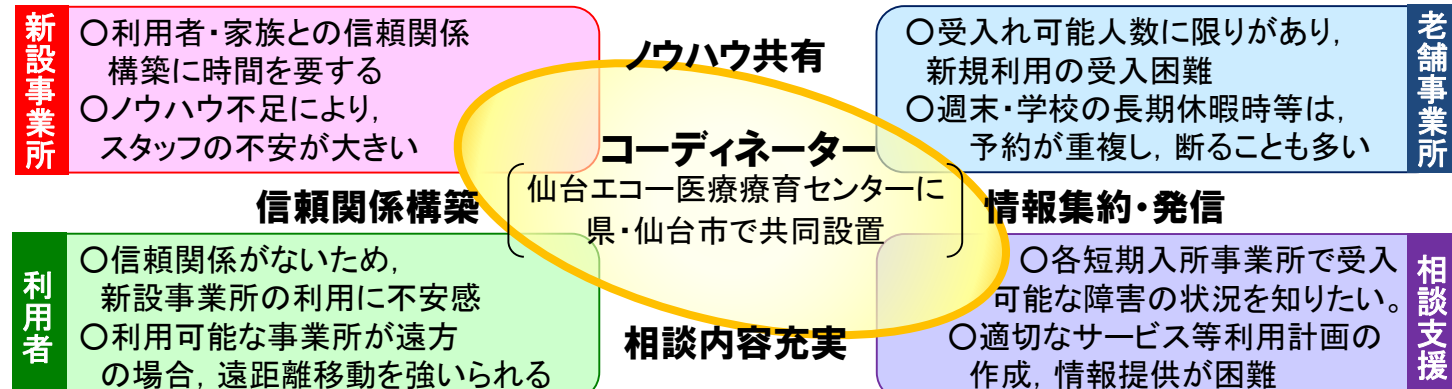
モデル事業実施病院	年度	実績
米谷病院	H28	延べ2日, 実1名
	H29	延べ11日, 実4名
	H30	延べ4日, 実2名
若柳病院	R1	延べ8日, 実3名
	H29	延べ2日, 実2名
大崎市民病院	H30	延べ16日, 実4名
	R1	延べ16日, 実4名
大崎市民病院鹿島台分院	R1	延べ21日, 実3名
	R1	延べ3日, 実2名



2 施策展開

(2) 医療的ケア等コーディネーター配置事業(H30～) [H31当初予算額:5,150千円]

○医療型短期入所事業所に係る各種情報の集約・発信、事業所間の連携強化を担う



医療的ケア等コーディネーターの役割

- 利用希望者への支援及び事業所情報の集約
- 事業所の職員を対象とした研修の開催
- 担当者会議の開催

H30年度の主な取組

- 各事業所の利用状況の把握
- 利用希望者からの相談対応
- H28年度以降開設事業所を対象とした研修
- 担当者会議の実施 等

成果

- 新設事業所における重症心身障害児者への理解が深まった。
- 各事業所が抱える課題の共有ができた。

(3) 医療的ケア児支援促進モデル事業(H30～) [H31当初予算額:710千円]

○訪問看護ステーションと連携し、障害児通所事業所で医療的ケア児の受入環境を整える。



(4) 医療的ケア児等コーディネーター養成研修等事業(H30～) [H31当初予算額:1,641千円]

○法定カリキュラムに基づき、相談支援事業所等において、医療的ケア児等支援を総合調整する人材(コーディネーター)、通所事業所や保育所、学校等での直接支援を行う者(支援者)を養成。(県・仙台市共同実施)
○コーディネーターになった相談支援専門員、看護師等はチームで活動

効果

- ・福祉、医療、教育等、関係機関同士の連携体制構築
- ・医療的ケア児等支援の裾野拡大

コーディネーター
(相談支援事業所等)指導
助言直接支援者
(通所事業所、保育所、学校等)

H30年度医療的ケア児等コーディネーター養成研修修了者

	研修修了者	修了者の資格	修了者の所属
コーディネーター	35名	相談支援専門員、介護福祉士、看護師、保育士、他(作業療法士、理学療法士、介護支援専門員、養護教諭等)	相談支援事業所、訪問看護事業所、地域生活支援拠点、多機能型事業所、児童発達支援センター、放課後等デイサービス、医療機関、小学校
支援者	36名	相談支援専門員、看護師、保健師、准看護師、保育士、介護福祉士、精神保健福祉士、行政 等	相談支援事業所、訪問看護事業所、児童発達支援センター、放課後等デイサービス、老人保健施設、行政 等